
片想い

蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

片想い

【Nコード】

N0234F

【作者名】

蒼

【あらすじ】

切なくて、恋しくて、伝えることができなかった臆病なコの想いを書いたストーリーのないお話。

恋しくて、

恋しくて。

泣きたくて、

泣けなくて。

どうしようもなくなって、小さな痛みが切なくなった。

*

友達　といえるかどうか分からないような仲だった。どちらかというと只の知り合いみたいな感じで話もそれほどしたことなくて、けど、いつの間にか『友達』に近くなっていて、良く話してもするようになつて、それが知らないうちに『恋』になつていた。

なんで？とかどこらへんが？本当に好きなの？なんて聞かれても答えられなくて、自問自答を繰り返していた。けど、気が付いたら

目で追っていた。

どこにいても、何をしてても何となく探してた。

気になつて仕方がなかった。

だから近付きたいと思つていた。けど、近付きたいと思う気持ちとは反対に逃げていた。

恐かった。

もしも気持ちを受け取ってもらえなかったらと、拒絶されたらと思うと言えなかった。それが、それだけが本当に恐かった。

それなら、只近くに、ほんの少し近くにいられば。それだけ

で幸せだと思った。
けど、日々が後ろに遠ざかっていくとやっぱり人は変わるし、環境もそれぞれことになっていく。気が付くとあの人には恋人が出来ていて、今更ながらに後悔する。
どんな形になったとしても言えば良かった。伝えれば良かった。
そしたら『今』は変わっていたかもしれないのに。
そんなことを悔やんでも仕方がないのに、もう遅いのに。

*

時々、
気持ちを思い出しては切なくなる。あの姿を思い出しては恋しくなる。
泣きたく なる。
言えなかった言葉が伝えたかった思いが涙とともに流れて小さく風に吹かれるように消えた。

『好きです。』

(後書き)

こんな駄文を読んで下さってありがとうございます。本当に有難い
です。変なところがあればどんどん言って下さって結構です。むし
ろ言ってください。今回はほとんど会話文がないです。ストーリー
さえ全くないような内容です。想いを抱いている人物が男なのか女
なのかも分からないようにしています。なのでこんな文を読んで下
さったかた、本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0234f/>

片想い

2010年10月13日17時39分発行